手稲 さと川便り　　第7号

手稲 さと川探検隊
ニュースレター
No.7　2011.1

私たちは、大都市札幌に僅かに残された自然である住宅地を流れる河川とその水源の手稲山で、生き物と触れ合うことから遠ざかっている大人や子どもが、身近な自然を体験し生きものに触れ、森を知ることで感じ、癒され、自然と人とのかかわりの環を広げていくことをめざしています。

7年目の活動となる2010年は、応用生態工学会全国大会と協働で研究者と一緒に魚とりをしたり、育児を応援する「のこたべ」と手稲の山小屋でヒグマについて学び、人形劇を楽しんだりしました。そのことを通じ新たに自然の中での音楽、人形劇などの文化、研究者との交流、北海道発信の「木育」への取り組みを始めるなど、より幅の広がる活動となりました。

今後も地域に根ざし、手稲の自然の変化を観察し見守りながら、遊び、学び、癒される場として手稲山と流れ出る川を身近に利用できるように智恵を絞り、活動していきたいと思います。

2010年春～秋 生きもの調べ・森づくり活動　　子どもゆめ基金助成活動

今年も、手稲の住宅地を流れる河川とその水源の手稲山で、さまざまな体験活動を行いました。活動を通して、より深く自然に学ぶとともに付き合う技を磨き、かつ自然を守り育てる感性を育んでいけることを期待しながら。

これらの活動は子どもゆめ基金（独立行政法人国立青少年教育振興機構）の助成で実施されました。

6月5日　水生生物モニタリング（1）＋かたつむり探偵団　　カッコウの森、三樽別川、星置川

今回はカッコウの森でかたつむり探しをしながら散策、そのあと、三樽別川まで下りて水生昆虫の調査、星置川に移動しお昼ご飯、生きもの探しというプログラムでした。子どもたちはかたつむりを見つける名人です。すごい勢いで「見つけた！」「見つけた！」の声が飛び交います。ジメジメした木の葉の下などに隠れていることが多いと思っていましたが、木の高い場所に這ってきているかたつむりが多くて意外でした。サッポロマイマイは木の上、エゾマイマイは地面に多くいました。木にくっついているかたつむりはまるで「木の目玉」みたいに見えました。

専修短大布川ゼミの学生ボランティアも参加してくれました。石の裏についている水生昆虫のさなぎや幼虫を歯ブラシでこすって採取する「歯ブラシ隊」として大活躍しました。初めて大きいハリガネムシを発見してみんなびっくりでした。3センチ近くあるヒゲナガカワトビケラがさなぎになりかかっていました。そのあとは星置川で昼食、モクズガニ、コオニヤンマのヤゴ、ハナカジカ、スジエビ、ヌマエビなどを発見しました。

9月11日～12日　水生生物モニタリング（2）＋野鳥観察とオニグルミでの染色

三樽別川、星置川、手稲山パラダイスヒュッテ

1日目は星置川と三樽別川で生きもの調べです。琴似工業の高校生もボランティアとして参加、子ども達のお兄さんお姉さんになってくれました。石や落ち葉の下にたくさんの水生昆虫がいました。マツバトビケラ、カワゲラ、トビケラの抜け殻も沢山ありました。この日は手稲パラダイスヒュッテに宿泊、夜に食べたゴーヤチャンプルは絶品でした。翌日は早朝野鳥観察会です。「旭山森と人の会」の皆川さんが鳥の先生としてきてくれました。この時期は鳥の数が一番少ないのであまり発見できませんでしたが、青い空はとてもさわやかでした。

2010年春～秋 生きもの調べ･森づくり活動　　子どもゆめ基金助成活動

その後、羊毛をオニグルミで染める作業です今年豊作だったオニグルミを生のまま細かく削り、鍋で煮出し、羊毛を浸して染めるのです。アクの強いクルミは鮮やかな茶色にそまりました。冬にみんなでクラフトに使いましょう。

11月13日～14日　冬越しする生きものを感じよう　ヒグマの話と人形劇体験　　手稲山パラダイスヒュッテ

手稲山で冬眠間近のヒグマについて学び、私達の暮らしているすぐそばで生活しているクマについて知ること、そして森や木の匂いを感じる山小屋で音楽や文化に触れるという企画です。今回は子育てを応援する「のこたべ」との共催です。北海道クマネットワークと北大クマ研の皆さんが講師に来てくれました。クマの前身の毛皮や頭骨、糞を見て、触って、クマにまつわるクイズで楽しく学ぶことができました。クマ発見器は男の子に大人気でした。

宵闇がせまる頃、おたのしみ劇場ガウチョスさんによる人形劇と音楽を楽しみます。演目は「赤牛と黒牛のワルツ」「馬を買いに行った男の話」そしてこの日のために用意してくださったマリオネットと歌のパフォーマンスです。木の匂いと、ほの暗い灯りの中で子ども達は身を乗り出して観ていました。蓄音機から流れるノスタルジックな音色と人形劇･･･大人も心震えるほどの感動でした。美味しい晩御飯のあとは、ねおすの荒井さんが子どもたちをナイトウォークに連れて行ってくれました。真っ暗の真の闇は貴重な経験だったと思います。寝る前には父ちゃんによる絵本の読み聞かせです。「たのしいふゆごもり」「あるきだした小さな木」「満月の夜の伝説」の三冊。子どもはもちろんこと、大人も優しい声にうっとり癒されました。

翌日は早朝観察会で皆川さんが鳥の先生です。朝早いお散歩はどんなに寒くても気持ちが良いです。景色がひらけ、日本海が見える場所まで行きました。海岸線がきれいに見えます。風が強く、鳥たちはどこかにじっとしているようでしたが、ヤマゲラを見つけることができました。盛りだくさんの二日間でした。山小屋からの帰り支度をしているころ、虹が出ていました。

12月11日　水生生物モニタリング(3)ソーティング　　手稲コミュニティーセンター

6月と9月に中の川と三樽別川で採集した水生生物のソーティングです。
モニタリング調査のここが試練。細かいカゲロウやトビケラ、ユスリカなどの虫たちを、ルーペなどを使いながら、ピンセットで1匹1匹分けていきます。専修短大布川ゼミの水生昆虫チームの学生達に助けられながら、根気勝負で徐々に進めていきます。終われば昼ご飯！頑張りました。
楽しいお昼のひと息も束の間、今日はもうひとつのヤマ場が。今年3年目になる樹木の飛来種子の調査です。秋にカッコウの森と稲雲の森に設置したシードトラップに入ったタネのソーティング、今年はカンバ類が不作だったので楽、だったかな･･･。ミズナラとイタヤカエデが豊作でした。結果はWebで。。。

2010年　冬～秋 生きもの調べ･森づくり活動

2月12日　アイヌの伝統食をまるごと体験！オントゥレプを食べてみよう　　手稲コミュニティーセンター

ウトナイサンクチュアリセンター安田千夏さんに講師に来ていただきました。2009年の夏にオオウバユリを採取し、オントゥレプ（オオウバユリの根からでんぷんを取った後の繊維を発酵、乾燥させたもの）作りをしましたが、今回は量が不足、オントゥレプからデンプンを取り出すことは出来ず、アイヌ伝統食「魚の汁」（チェプオハウ）と「しばれイモ」ペネコショイモ団子を作って食べました。

3月13日　手稲山麓　雪の中には何がいるかな？（2）　　稲雲の森

春の足音が聴こえてきそうな日でした。フィールドビンゴで生きものさがしをした後、ソリすべりを楽しみました。少し動くと汗ばむくらいです。この日は新しくつくられた樹洞のマンションを沢山見つけることができました。食欲旺盛な鳥たちが春の準備をしているのでしょうか？虫が木を食べたあとの表面が迷路のようになっていたり、イタヤカエデからちょっぴり甘い樹液が染み出したりしていました。

おたのしみのお昼ご飯は牛乳パックで作るホットドック！毎回こども達に大好評です。さと川恒例のあたたかいスープも絶品です。外でみんなで食べるお昼は最高です。午後からは前の年の秋にカッコウの森と稲雲の森に仕掛けたシードトラップのタネを数えました。この年は、ごく小さいタネのカンバ類が豊作で何千粒もあって、とてもたいへんでした。

9月23日　札幌の川、ざわめく自然を体験しよう！（応用生態工学会全国大会自由集会）札幌市豊平川さけ科学館

応用生態工学会全国大会自由集会として、研究者と子ども達と一緒に川に入る新企画です。講師に元筑波大学の池田宏先生、愛媛大学の三宅先生をお招きし、午前中は北の沢川で魚とり、その後豊平川の合流点まで川を下って歩き、午後からはさけ科学館にて川の模型実験や生き物についての解説やお話、その後講師の先生方による研究の紹介と内容の濃い貴重な体験盛りだくさん！手稲さと川探検隊はスタッフとして参画しました。
この秋一番の冷え込みとなって、北の沢川の水温は13℃！まずは三宅先生と渡辺恵三さんによる「プロの魚採り」の伝授を受け、元気に川に入ります。

わーっ、いるいる！ひたすら捕ります。その後、川の変化を見ながら豊平川への下りました。産卵後のサクラマスを見つけ大歓声！岩盤だらけになった豊平川を渡って、池田先生から話を聴きます。午後は捕れた魚を調べ、池田先生の水路実験に驚嘆し、先生からのわかり易いお話に耳を傾けました。子どもも研究者もともに素敵な時間を過ごしました。また来年もやろうね！

10月23日　奥手稲山　タネ採りとタネ蒔き　　奥手稲山

手稲金山から奥手稲山の山小屋の方まで車で行きました。山小屋の補強工事のために一時的につけた作業道を来年には自然に復元するための下見とタネ採りの目的です。標高が高いのでいつも活動する麓の手稲山とはずいぶん景色が違いました。今年は猛暑のせいか紅葉は鮮やかではありませんでしたが、抜けるような青空のもとタネ蒔きをすることができました。

2010年　その他の主な活動　　コープ未来の森づくり基金助成活動ほか

★4月24日　手稲山麓　早春の林、蛙の卵探偵団

カッコウの森でエゾサンショウウオの親と卵の観察をしたあと、大切にもとの池に戻し、手稲西小前の池まで蛙の卵を探しにいきました。エゾアカガエルの卵は少しだけ持ち帰り、おたまじゃくしになるまで大切に育てました。

★5月16日　手稲山麓　早春の林　早朝野鳥探偵団

春の花が一斉に咲き始めたカッコウの森で朝5時から早朝野鳥観察会を行いました。皆川昌人さんがつくった鳥合わせシート（春）用をつかって確認していきます。最初見つけられなかった鳥たちをだんだん見つけられるようになった時の嬉しさと鳥のさえずりを聞きわける楽しさにだんだん引き込まれていきます。

★5月23日　手稲自然フォーラム

手稲の自然に関わる団体同士の交流を図ることによってより深く手稲の自然と触れ合い、可能性について一緒の考える目的で開催されました。
《参加団体》稲穂金山自然くらぶ、手稲フットパス・クラブ、手稲アウトドア・クラブ、手稲さと川探検隊　《協力》手稲区役所地域振興課

★9月3日　手稲タンケンツアーに参画

手稲区主催の「小学生の夢・10年後の手稲のまち事業」の受賞者とその保護者を対象にした「手稲タンケンツアー」の「星置川の生きものタンケン」を担当。子どもたちは網を持って生き物を採取、観察しました。星置川には鮭がたくさん上ってきていました

★11月7日　やましなの森　植樹会　（札幌この実会、北の里山の会主催）

社会福祉法人この実会所有地、盤渓やましなの森で北の里山の会主催の植樹会に参加しました。当会で手稲でタネ採りをして育てていた苗400株弱も含め、1600本もの木を植樹しました。丸太を運んだり、スコップで穴を掘ったりと結構な重労働でしたが子ども達が生き生きと力仕事をしている姿が頼もしかったです。植えた樹種はトドマツのほかハルニレ、アオダモ、ミズナラ、カエデなどで、今後は里山活動の場としても管理、利用していく予定です。森になっていく様子を見守りたいですね。

★7月11日　森林療法体験会in北大植物園（ホリスティック医学協会主催）

「身近な森林のささやきに触れる」森林療法の実践・・・NPO法人森の生活の奈須さんが講師です。座学で森林の効用について学んだあと、北大植物園に移動、樹林気功、呼吸法で身体を整え、グループに分かれて散策しました。ワールドカフェという手法で「あなたが心安らぐ場所はどこですか？」をテーマに自分の気持ちを表出していきます。森の中で心と身体がほぐれていきます。植物園の中は札幌の中心部なのに驚くほど静かで、自然に囲まれていました。

☆樹木の苗の育成

～地域に自生している樹木から
採ったタネを播いて育てています～

街の中を流れる川にはもう河畔林もなく、そもそもこの辺りには林もなく、だからもともと棲んでいた生き物はいなくなってしまいました。
川の周りに兎や鳥たちが住める林があったら、それが手稲山とつながったら、札幌の周りをぐるりとつながったら、素晴らしいと思います。山口緑地など近隣地域での植樹やアースウォーカー中渓宏一さんにも苗を提供してます。
そして何よりタネを採り苗を育てるのは、本当に楽しいことです。
苗木づくりは誰もが参加できる未来に地球につながる活動。様々な人達と活動していきます。

＜育てている苗木＞ミズナラ、イタヤカエデ、ハウチワカエデ、ハルニレ、アオダモ、ホオノキ、オヒョウ他

手稲さと川探検隊　　会員募集中！

★手稲さと川探検隊の仲間になりませんか？

1．探検隊員：川の生きもの調べなどのイベントに参加できる方
　　年会費：1人1,000円　（ファミリー隊員　1家族1,800円）
2．応援隊員：手稲さと川探検隊の活動を応援してくださる方
　　活動応援費：1口　500円　※イベント等のご案内、ニュースレターの送付などをさせていただきます。
3．スタッフ：各イベントの実施サポート、広報・企画などお手伝いしてくださる方

手稲さと川探検隊　　連絡先　：　代表　鈴木　玲　Tel　080-1891-7847　　Fax　011-684-4487
〒006-0807　札幌市手稲区新発寒7条6丁目8-19　　E-mail　t-satogawa@mail.goo.ne.jp
ホームページ　　http://www.sapporo-web.com/satogawa/　　市民活動サポートセンター登録No.41939